インタビューコーナー

皆様に気軽に話しかけられ、好意を持たれる部長でありたいと思います。

沖縄県福祉保健部長
宮里　達也　先生

Q1. この度は、福祉保健部長ご就任おめでとうございます。部長に就任されてのご感想と今後の抱負をお聞かせいただけますでしょうか。

このたび福祉保健部長の辞令を受けました宮里です。医師会会員の皆様には、昨年までの統括監職の時にも大変お世話になっていますので、あえて自己紹介するまでもないと思いますが今後ともよろしくお願いします。

部長就任の感想・抱負ということですが、あまり力みかえった感想・抱負などはむしろもたず、祖父の口癖だった「誠シヨー、誠ソーレ、ナンクルナイグトゥ」の言葉を信じて、ただ誠実に課題に立ち向かっていこうと考えています。

部長になって変化したことといえば、統括監のころまでは気軽にいろいろお願いされるままに行動していました。しかし、部長就任直後、日程管理をしている職員から、今後は絶対に、勝手に日程を入れることはやめてくださいと強く言われました。部長職は一般行政職のトップとしての最終責任を負う立場ですから、仕方ないのかもしれませんが、少しばかり皆様にご迷惑をかけるかもしれません。その辺の所はご理解ください。

Q2. この度の大地震において、県では「東日本大震災沖縄県支援対策本部」を設置しておりますが、どのような支援を行っているのでしょうか。

3月11日は全国の人が、テレビで伝える映像がかつての東宝映画でも見ているように感じられ、現実に起こっていることが実況映像で伝えられているとはなかなか信じられなかったのではないでしょうか。

その日、私は午後4時近くまで議会対応をしていました。20分の休憩があり部屋に戻ると職員が全員立ち上がってテレビを見ておりました。どうしたのか聞いたところ、東北地方で大地震が発生し、大津波が襲っているとのことでした。テレビで流れている映像は信じられない気持ちでしたが、これは議会対応ができる状況ではなく、今後求められる被災者支援の計画を検討しなければと考え、委員長に出席不可の連絡をしてもらいました。

4時過ぎには、知事から対策本部会議を開催するから参加するよう指示を受けました。その会議で知事から、医療保健部門の支援を最大限行えるよう命じられました。早速DMATを組織している病院の方々、赤十字、医師会、市町村（保健師確保）へ手分けして調整連絡を行いました。赤十字は独自派遣ルートで対応すると

のこと、また、徳洲会DMATは福岡で九州チームのバックアップ要員として福岡で待機するとのことでした。

医師会でも被災地の医師会と調整のうえ独自に派遣するとのことで、夜7時過ぎから緊急会議をもちできるだけ早く派遣すると決まりました。必要物資等の準備で一番の課題は雪国仕様の車両確保でした。そのことでもたもたしていたところ、医師会は「独自ルートで車の確保ができた。明朝東京へ出発する。ただガソリンの確保等ができないので県で準備してほしい」と連絡があり、東京事務所の方々に頑張ってもらいどうにかご要望に対応でき、岩手に出発することができました。

急性期が過ぎると必ず精神科の問題が出てくると容易に考えられましたので、精神病院協会の先生方に相談しました。県に全面的に協力して同会として支援していくことを決めていただきました。

その他、看護協会の方々も全国組織のラインで要員を派遣していると聞いています。おそらく沖縄から一日あたり40人以上の保健医療関連の方々が、支援に入ったと思われます。改めて医師会はじめ沖縄の医療人の善良な心根に感動しました。心から感謝します。

もう一つご紹介したいことがあります。多くの方々が現地へ行きました。私の心配はもう一つ出てきました。被災地支援で救急医療を中心に沖縄自身に問題が発生しないだろうかとの懸念がありました。そのため、DMATを組織していない那覇市立病院の方々には特別にお願いして、手薄になるであろう地元の救急医療機能のバックアップのためぜひ普段以上に頑張っていただきたいとお願いしました。病院には現地にいきたいとの強い希望もありましたが、沖縄で頑張っていただきました。本当に感謝します。

距離・気候の要因で多少出遅れになった感もありますが、どうにか頑張り合格点をつけられると思います。連休に私も現地に入りましたが、岩手県の部長さんから感謝の言葉がありました。

Q3. 沖縄県の長寿復活や地域医療の充実、医師確保事業等福祉保健部が抱える課題や今後の展望についてお聞かせください。

沖縄の平均寿命は、伸び率は鈍化していますが男女とも延び続けています。しかしながら、私が言うまでも無く肥満・糖尿病等が県民健康問題の大きな課題です。そしてこれは県民の中で健康状況の二極化をうき立たせているように見えます。不健康な生活を送っている県民をどう導くか大きな問題だと考えています。

上記のことも大きな課題ですが、福祉保健部にはさらに多くの課題があります。その主なものを箇条書きにします。

1. 医療職者の研修機能の更なる向上
   (琉球大学のシミュレーションセンター、看護協会研修センター等の整備事業成功)
2. 県立病院の健全経営のしっかりした道筋をつける
3. 地域医療を担う医師の適正配置の仕組みづくり
4. 新たな沖縄振興計画の実現のための国との調整

今回、代表的事項を列記しましたが、その他にも課題山積です。皆様のご支援をいただき一歩一歩解決に向けて努力したいと思います。

Q4. 本会や日本医師会に対するご意見・ご要望がございましたら、お聞かせください。

会への要望というより、行政として県から皆様への情報提供という点で反省することが多々あると考えており、ぜひ改善に努めたいと考えています。正直に話し合い、皆で解決策を模索することこそが、遠回りのようで実は解決への一番の近道だと思っています。

ただ一点、医療事故へいかに対応すべきか、あるいはクレーマーをどうするかとか、医療現場を守る仕組みづくりの前進ため、大きな国民議論を喚起していただきたいと希望しています。

Q5. 最後に日頃の健康法、趣味、座右の銘等がございましたら、是非お聞かせください。

実は、私は19歳のころから脊椎管狭窄症で、両足膝下は絶えずしびれて歩行にも困難を感じることがある情けない状況です。それで出勤などは多少無理をしても歩くことに勤めています。これが唯一の健康維持のための努力です。しかし、体重にも気をつけているのですが、なかなか適正体重を維持することはできていないため反省しております。

趣味は、歌うことと友人と碁を打つことです。医師会の囲碁大会にはほとんど参加しており、そこで知り合った先生方にはいつもかわいがっていただいております。

座右の銘ではありませんが、先日南部医療センター院長の大久保先生が「緒方洪庵の医戒」について研修医に話しておられました。久しぶりに読み直してみました。医師としての戒めが12の項目について述べられているのですが、現実の自分と照らしてなかなかできることではなく、忸怩たる思いにかられます。しかし、一つだけ8番目の「衆人の好意を得んことを要すべし」は到達可能の努力目標になるのではと思ったりします。いろいろ至らぬことがあり、会員の皆さんをはじめ県民にご迷惑をおかけすることもあるかもしれません。ただただ誠実に、皆様に好かれる部長でありたいと思っておりますので今後ともよろしくお願いします。

この度は、インタビューへご回答頂き、誠に有難うございました。

インタビューアー：広報担当副会長　玉城 信光